令和５年度第４回新子どもかがやきプラン推進委員会の報告について

１　開催日時

令和６年１月２５日（木）　１０：００～１２：００
岐阜県庁　２０階会議室

２　概要

次期プラン策定に向け、意見を聴取した。

３　委員から出された主な意見

・各地域の教育資源を柔軟に選択できるようになることは、とても有意義なことである。計画の中に、「柔軟に選択できる」という文言があまり出てこないため、もう少し前面に出てくる内容にしてほしい。
・コア・ティーチャーをなかなか派遣してもらえない現状がある。今後、専門性の向上のために、どのように活用していくのか、具体的に示されるとありがたい。また、コア・ティーチャーが同じ岐阜地域内に留まるのではなく、人事異動で地方に配置してもらえたらありがたい。
・コア・スクールは、コア・ティーチャーが外部支援に行きやすい環境を作ることが大事である。
・コア・ティーチャーの活用については、教育センターの講座の中で講師として活用したり、指導主事と一緒に特別支援学校を巡回したりするなど、考えていただきたい。
・特別支援学校設置基準については、何が課題で、どんなことに取り組む必要があるのかということをデータとして出すべきではないか。計画更新の時期であるため、大元の計画には明確に位置付けた方がいいのではないか。
・新子どもかがやきプランで新しくできた学校と従前からの学校を比べると、環境の違いを自然に感じる部分はあると思う。いろいろなことを選択できるインクルーシブ教育にもっていくわけだから、その時に良い環境を用意して選ぶことができるようにしてほしい。
・狭隘化で教室不足となっている特別支援学校の児童生徒の一部について、地元の小学校に、特別支援学校の分教室のようなものを作り、特別支援学校の教員が入り、特別支援学級と連携しながら授業を作るような取組は、お互いにメリットがあると思う。将来のインクルーシブ教育の姿ではないか。
・高等学校で人数の少ない不登校特例校を作るのであれば、岐阜盲学校と一緒にできる部分があるのではないか。高等学校の生徒にとっても視覚障がいの生徒と関わることでのメリットがある。また、教員が同じ教科、教科書でやれば、２校を１人で担当でき、そのようなモデル事業もできるのではないか。
・新子どもかがやきプランの中身は、高等学校の先生方、生徒たちに関わる内容であるため、ぜひ新子どもかがやきプランが全県で、特別支援学校の世界にとどまらず、高等学校も巻き込みながら、うまく伝わるといい。
・更新するプランの３つの柱はとても大事であると思うが、ちゃんと理解して取り組んでいく人がいるかどうかも重要であり、意識の高い先生方を巻き込んでいきながら、人材を育成していただきたい。実際に特別支援学校の現場に入るということは、

高等学校の先生にとって非常に有意義なことである。

・今、高等学校でも、どのように学校を維持していくかの検討段階であると思う。今のままだと高等学校も維持していくことが大変厳しい状況であり、そういうことも踏まえ、一体的に議論を進めていく必要がある。

・関係機関との連携を強化するというところはぜひお願いしたい。各地域の資源と各障がい者就業・生活支援センターと早い段階で連携をすることができる体制を整えていただきたい。

・早く飛騨、東濃地域の高等特別支援学校機能の整備を進めてほしい。

・特別支援学校において養成されたコア・ティーチャーのその後の活用について、各地域の特別支援学校に還元する仕組みを整備することはとてもよい。今より踏み込んで、各地域の特別支援教育体制という視点から、計画的な人事異動など積極的に戦略的に取り組んでいただきたい。

・高校通級を巡回型で各地区を網羅する方向性についてはよいと思う。ニーズに応えられるよう通級の設置校や担当教員の配置を進めていただきたい。

・高校通級の担当教員の養成と、高等学校における校内支援体制の整備を進めることに加え、高等学校における通級指導並びにそこで学ぶ生徒の特徴や支援の在り方等、高等学校教員を対象とした研修の持ち方の検討がしたい。

・視覚障がいのある児童生徒に対する支援の充実に向け、岐阜盲学校を拠点とした通級指導体制を構築するとあるが、盲学校の職員が小中高等学校を巡回するのか。また、各地域の特別支援学校のセンター的機能との兼ね合いや、将来的な展望についても具体的に示していただくと、活用しやすいのではないか。